

肢体不自由特別支援学校 中学部 準ずる教育課程及び知的障害課程 保健体育科 学習指導案

[全体計画]

日 時	平成**年*月*日 (*) 3校時 10:45~11:35	場所	体育館
指 導 者	T1〇〇, T2〇〇, T3〇〇, T4〇〇, T5〇〇, T6〇〇		
単元名	「ボッチャをしよう」		
単元設定の理由	<p>中学部の保健体育は、様々なチームスポーツを経験したり、生徒同士が協力したり、互いに学び合いができる環境を設定したりするために、中学校学習指導要領に準ずる教育課程2名と知的障害課程7名、合わせて9名で合同授業を行っている。身体の動きに関する実態は幅広く、特に投球動作については、約10m先のコート奥まで投球できる生徒から、投げる動作自体が難しく、ランプという勾配具を使用しないと投球できない生徒、投げる動作はできるが、ねらいに向かって調整することが難しい生徒など様々な生徒がいる。ボッチャの経験については、部活動の中で公式ルールでの経験がある生徒と学部行事のレクリエーションボッチャのルールでしか経験したことがない生徒が混在している。また、生徒たちは全員、身体に障害を有しており、身体を動かす機会が少ない。そのため、自分の身体の各部位や姿勢に意識を向けたり、身体の動かし方を調整したりする力が極端に弱い実態である。そのため、ボッチャに取り組んでいる様子を見ても、なんとなくジャックボールの方に投げて、たまたま近づいて勝ちにつながるというゲームの楽しみ方をしている生徒も少なくない。</p> <p>本単元で取り上げる「ボッチャ」は、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式競技である。パラリンピックの競技となるほど、投球技術や戦術に奥深さがある一方、赤と青の2チームに分かれ、ジャックボールにいかにか近づけられるかというシンプルなルールは、発達段階の幅の広い本集団の生徒たちにも理解しやすい競技である。本競技をI課程では、生徒の実態や特性を考慮した上で、中学校学習指導要領保健体育編の内容E「球技」として取り扱い、II課程では、ルールを分かりやすく工夫することで、特別支援学校学習指導要領解説総則編中学部の保健体育の内容にある「簡単なスポーツ」として取り扱う。</p> <p>また、「ボッチャ」は、他の球技のようにポジション取りをしながらかボールを扱うことや、急いで反応することは求められず、決められた位置からジャックボールまでの距離と方向を判断して投球するので、投げるという一つの動作に絞って技能の向上に取り組むことができる競技でもある。ジャックボールの位置を把握し、判断する力は、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編第6章4「環境の把握」の(2)感覚や認知への対応に関すること、(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関することに深く関係している。また、ねらったところに投げるという動作は、5「身体の動き」の(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること、(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関することも関係している。よって、本単元では、自立活動の「環境の把握」、「身体の動き」と関連付けながら、I課程は、E「球技」の(1)より、「自己の能力に適した課題をもって運動を行い、その技能を身に付けること」を目標とし、II課程では、目標にある「適切な運動の経験」と「体力の向上」に着目して、投球技能を高めることに着目していく。</p> <p>そこで、本単元では、ジャックボールまでの距離や方向を確認したり、姿勢や投げ方をどのように調整すればよいか考えたり、ランプの傾斜や方向を工夫したりすることに重点を置いて取り組んでいく。そして、ゲームでは、ルールを工夫し、投球前にヒントタイムを設定して教師と投球のポイントを確認することで、練習で身に付けた投球技能を発揮してジャックボールに近づけることができるようにする。その結果が勝敗に結び付くという成功体験を積み重ねることで、偶然で勝利するのではなく、自分で考えたり、自分の身体をコントロールしたり、補助具を調整したりして取り組むことが勝敗につながることを実感し、ゲームを楽しむことにつながってほしいと考え、本単元を設定した。</p>		

単元の目標	<p><b>【準ずる教育課程】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックボールに近づけるための自分の投球について、課題を見つけたり、考えたり、工夫したりしたところを伝えることができる。〔思考・判断・表現〕</li> <li>・ジャックボールに近づくような投球を繰り返し行うことができる。〔技能〕</li> </ul> <p><b>【知的障害課程】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックボールの位置や、投げ方のポイントについて、教師の問いに答えることができる。〔思考・判断・表現〕</li> <li>・得意な距離のジャックボールに近づくよう投球することができる。〔技能〕</li> </ul>
指導計画 (4時間扱い)	<p>第1次 ジャックボールに近づけよう ……2時間</p> <p>第2次 練習を生かしてゲームに取り組みよう ……2時間(本時は1時間)</p>

[本時の指導]

1 全体目標

**【準ずる教育課程】**

- ・ゲームの中でジャックボールに近づけるために、距離や方向を確認したり、どのように投げるか考えたりしたことを教師に伝えることができる。〔思考・判断・表現〕
- ・ゲームの中でジャックボールに近づくよう投球することができる。〔技能〕

**【知的障害課程】**

- ・ゲームの中で、練習で確認したジャックボールの位置や投げ方のポイントについて、教師の問いに答えることができる。
- ・得意な距離のジャックボールに近づくよう投球することができる。〔技能〕

2 生徒の実態及び個別目標等

①自分の身体へ意識を向けたり、調整したりする力

- ◎：姿勢の状態を把握したり、細かく動きを調整したりすることができる。
- ：姿勢の状態を把握することが難しいが、大まかに動きを調整したりすることができる。
- △：教師の手本をまねて、大まかに動きをまねすることができる。

②距離や方向を把握する力

- ◎：ボッチャコート全体を、5段階程度で距離や方向を把握することができる。
- ：ボッチャコート全体を、3段階程度で距離や方向を把握することができる。
- △：ボッチャコート手前半分を、3段階程度で距離や方向を把握することができる。

③投動作

- ◎：ボッチャコートの中央より遠くに投げることができる。
- ：ボッチャコートの中央あたりまで投げることができる。
- △：1, 2メートル程度投げることができる。

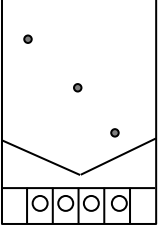
【評価基準】◎：十分達成している。○：おおむね達成している。△：達成しつつある。

担当生徒 学年（性別）	生徒の実態			個別目標	主な指導 場面 評価方法
	① 身体の意識 動きの調整	② 距離・方向 の把握	③ 投動作		
A *年 *課程	○	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚ではなく、投げる強さの段階を判断して、投球前に教師に伝えることができる。（思考・判断・表現）</li> <li>コート中央のジャックボールに近づけることができる。（技能）</li> </ul>	5 [確認] 5 [観察]
	自分の姿勢や身体の部位がどうなっているか把握することは難しい。気分によって動きを模倣することはできる。	コート全体の距離感や方向を把握することができる。	両手で投げたり、片手で投げたり自分で判断して投げることができる。		
B *年 *課程	○	○	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>コートにあるボールの位置を踏まえて、ねらいや自分の投球位置、強弱などを考え、教師に伝えることができる。（思考・判断・表現）</li> <li>狙いに向かってランプの調整を依頼したり、自分で判断して投球したりしてジャックボールに近づけることができる。（技能）</li> </ul>	5 [確認] 5 [観察]
	意識すると自分の姿勢を把握することができるが、自分が思うように身体をコントロールすることが難しい。	コート手前半分の距離、方向を把握することができる。	近距離であれば投球できる。遠距離はランプを使用して投球する。		
C *年 *課程	○	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向や距離を確認する言葉やルーティーンについて教師が質問したことに答えることができる。（思考・判断・表現）</li> <li>ジャックボールに近づけることができる。（技能）</li> </ul>	5 [確認] 5 [観察]
	姿勢を意識することが難しい。	コート全体の距離感や方向性を大まかに把握することができる。	投げ方が安定していなかったり、強さの調整が難しくかったりするが、遠距離まで投げることはできる。		
D *年 *課程	△	△	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>モールで囲った的に目を向け、ねらうことができる。（思考・判断・表現）</li> <li>モールで囲った的の中にボールを近づけることができる。（技能）</li> </ul>	5 [確認] 5 [観察]
	運動機能は高く、模倣もできるが、意図的でない。	カゴや分かりやすく工夫した的に目を向けてねらおうとすることができる。	投げる力はあるが、指示にしたがって投げることは難しい。		
E *年 *課程	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>急がずに距離や方向を確認し、どのように投げるか教師に伝えることができる。（思考・判断・表現）</li> <li>コートの手前半分にあるジャックボールに近づけることができる。（技能）</li> </ul>	5 [確認] 5 [観察]
	上肢の挙上等の難しい動きがある。姿勢などの違和感は気になり、治すことができる。	コート全体の距離感や方向性を大まかに把握することができる。	投げられる距離の限界がある。足を地面について力を入れて投げようとするすることができる。		
F *年 *課程	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>距離に応じた投げ方を実際に投げる前に教師に見せることができる。（思考・判断・表現）</li> <li>近い位置のジャックボールに近づけることができる。（技能）</li> </ul>	5 [確認] 5 [観察]
	動きはゆっくりであるが、大きな動きを大まかに模倣することができる。	コートの手前であれば、距離、方向を判断することができる。	2m程度の距離までであれば、投げることができる。腕の振りが安定せず、投げる方向がばらつく。		
G *年 *課程	○	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>投球の前に自分の姿勢や投げ方を言葉に出して確認することができる。（思考・判断・表現）</li> <li>ジャックボールに近づけることができる。（技能）</li> </ul>	5 [確認] 5 [観察]
	姿勢が崩れていても直そうとしないが、気持ちが入ると体を起こしたり、姿勢をよくしようとしたりする。	大まかにコート全体の距離や方向を理解することができる。	距離を出したり、強く投げたりすることもでき、下投げで正確に転がそうとすることもできる。		

H *年 *課程	○	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャックボールの位置がコート のどの辺りにあるか、投球前に 教師に伝えることができる。(思 考・判断・表現 [確認])</li> <li>コート中央にあるジャックボ ールに近づけることができる。 (技能 [観察])</li> </ul>	5 [確認]
	姿勢やフォームを 意識することは難 しいが、自分な りの方法で身体を動 かすことができ る。	大まかにコート全 体の距離や方向を 理解することがで きている。	狙ったところに真 つすぐにボールを 転がすことができ る。		5 [観察]
I *年 *課程	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>ランプの傾斜を3段階で判断 し、高さや方向を教師にジェス チャーで依頼することができ る。(思考・判断・表現 [確 認])</li> <li>近くのジャックボールに近づけ ることができる。(技能 [観 察])</li> </ul>	5 [確認]
	集中してすべてを 模倣することはで きないが、大きな 動きを模倣するこ とはできる。	3段階程度の距離 を判別することが でき、近い、遠い という言葉も理解 できる。	投動作としてボー ルを意識的に投げ ることが難しい。 ランプを使用して 投球する。		5 [観察]

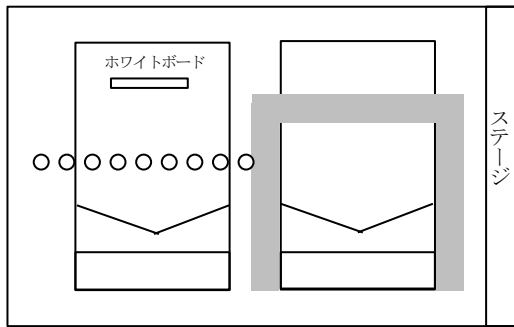
3 展開 ※形態の表記は 全体：全、 グループ：グ、 個別：個

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て (各Tの役割等) ※評価は□で囲む
全 (3)	1 集合、挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各Tは、生徒が追い越し等で接触しないよう、誘導したり、言葉かけをしたりする。</li> </ul>
全 (7)	2 準備運動をする。 (1) 特体連体操 (2) 上肢のストレッチ等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各Tは、T1が号令をかけたなら、ホワイトボード前に集合できるように、生徒を促す。生徒に応じて介助をしながら整列できるようにする。</li> <li>T1は、前で体操をする生徒と一緒に手本を見せる。</li> <li>各Tは、生徒に応じて腕の挙上や回旋等を補助したり、模倣できるように側で手本を見せたり、言葉かけをしたりする。</li> <li>T6は、Aが体操をしない場合には、足踏み等で身体を温める体操を行うよう言葉かけをする。</li> <li>各Tは、生徒が上肢をしっかりと伸ばしたりほぐしたりできるように、フォームを確認したり、他動的に伸ばしたりする。</li> </ul>
全 (5)	3 本時の学習内容の確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">練習をいかしてゲームに取り組もう。</div> (1) 練習 11:20 まで (20分) (2) ゲーム 11:30 まで (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>T1は、先週までの内容を振り返ることができるよう、生徒とやりとりをしながら学習内容を確認する。</li> <li>T1は、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、時間を明確に示したり、本時の中で行うゲームのルールをポイントをしばって説明したりする。</li> </ul>
グ・個 (10)	4 練習をする。  Aコート (奥行を狭めたコート) 赤：B (T2) D (T6) 青：E, F (T3) I (T1) 	<ul style="list-style-type: none"> <li>各コートに分かれたら、生徒ごとにボードを配付し、前時までの学習内容や反省を見ながら、各Tと一緒に本時の目標を確認する。</li> <li>各Tは、ゲームの中に投球ポイントを各自が振り返ることができるよう、距離、方向の確認方法をルーティーン化して覚えられるようにアドバイスする。【環(2)(5), 身(2), (5)】</li> <li>各Tは、生徒が投球のポイントに気づいたり、一緒に確認したりした時には、ボードに代筆して記録しておく。</li> </ul> <p>&lt;Aコート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2段階(手前と中央)の距離を練習する。カラーモールで円をつくって狙いを分かりやすくし、色分けすることで距離の遠近が分かるようにする。【環(2), (5)】</li> <li>T2は、Bに合った課題が設定できるように、投球ごとにゲームでの場面を想定し、Bが狙いを主体的に決められるようにする。</li> <li>T6は、Dが狙いに向かって投げることができるように、目立つもので視線を誘導したり、投げる手本を見せたりする。【環(2)】</li> <li>T1は、Iがランプの傾斜を選択しやすいように、腹、胸、</li> </ul> <p>※生徒の位置は固定せず、正面や少したけ方向を調整する程度の位置に移動して投球する。</p>

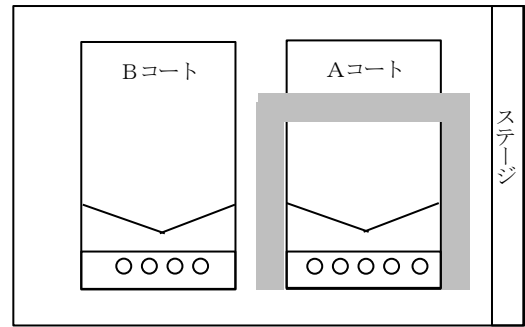
	<p>Bコート (公式コート) 赤: C, G (T4) 青: A, H (T5)</p>  <p>※生徒は各スローイングボックスから投球する。</p> <p>5 ゲームを行う。</p> <p>ゲームのルール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックボールの周りの輪にボールが多く集まったチームの勝ち。</li> <li>・赤, 青交互に投げる。</li> <li>・一人連続2球投げる。</li> <li>・投球前に先生とポイントを確認してもよい。(ヒントタイム)</li> </ul> <p>※本ゲームのジャックボールの位置は教師が設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎ゲーム, 全員の投球が終わった後にジャックボールを中心に直径1mの輪を置き, 近づいたかどうかを視覚的に判定できるようにする。</li> </ul> <p>6 振り返りをする。 各コートで行う。</p> <p>7 まとめ, 挨拶をする。</p>	<p>口の位置の3段階の高さで設定し, 距離とランプの高さの関係が分かるようにする。【環 (5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1は, Iがランプの方向を調整した後に, ボールの転がる方向が分かりやすいよう, ランプから帯を転がして確認できるようにする。【環 (2), (5)】</li> <li>・T3は, Eが投球を急いで行ってしまう場合には, ボールを渡す前に, 方向や距離を確認するポイントや投げ方を二者択一で質問し, 落ち着いて確認できるようにする。</li> <li>・T3は, Fがポイントを理解しやすいよう, 大げさな身振りで見せたり, よいか悪いかははっきり分かるように伝えたりする。</li> </ul> <p>&lt;Bコート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3段階 (手前, 中央, 奥) の距離で投球練習を行う。また, 方向の練習も行えるようねらいをコートの左右側にも設置する。</li> <li>・T4, T5は, 必要に応じて, 生徒が方向を定めたり, 腕を振る軌道の方向を確認したりできるように, スパット (床面に置く矢印) や矢印のついた竿を活用する。【環 (2), (5)】</li> <li>・T4, T5は, 必要に応じて, タブレットで生徒の投球フォームを撮影し, 生徒が自分の姿勢やフォームを確認できるようにする。【身 (2), (5)】</li> <li>・T4, T5は, 生徒の実態に応じて, 発問を選択肢を含めて行ったり, 単語で答えられるようにしたり, 簡単に言い替えられる言葉のヒントを与えたりして, 生徒が覚えやすく, 理解しやすい言葉でポイントを伝えられるようにする。</li> </ul> <p>・本時のゲームでは, 投球前に各Tが狙いや投球ポイントを確認する時間を取る。ゲームを繰り返す中で, 言葉かけを減らしたり, 生徒が主体的にポイントを確認できるように見守ったりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックボールに近づけるために, 距離や方向を確認したり, どのように投げるか考えたりして, 教師に伝えることができる。A, B, C, E, F, G, H, I (思考・判断・表現 [確認])</li> <li>・ねらいに目を向けることができる。D (思考・判断・表現 [観察])</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各Tは, 投球した生徒だけでなく, 見ている生徒にも参考になるよう, また, 意欲を喚起することができるよう, 投球直後にどのように工夫していたか, どこがよかったのかを分かりやすく言葉にして称賛する。</li> <li>・AコートはT2, BコートはT5が審判を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックボールに近づくよう投球することができる。全員 (技能 [観察])</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各Tは, ゲームの直後に勝敗と各自の成否 (ボールが近づいたか) を各自のボードメモしたり, シールを貼ったりする。</li> <li>・各コートでゲームの勝敗を振り返ったり, それぞれの目標の評価を行ったり, 反省を行ったりする。ボードには各Tが代筆する。</li> </ul> <p>・T1は, Aコート, Bコートからそれぞれ一人指名し, 本時の感想を述べるよう依頼する。</p>
--	--	--

【活動配置図】

準備体操, 説明等



練習, ゲーム



【板書計画】

ボッチャ

練習をいかしてゲームに取り組もう

- ①練習 11:20まで (20分)
- ②ゲーム 11:30まで (10分)

ゲームのルール

- ・ジャックボールの周りの輪にボールが多く集まったチームの勝ち。
- ・赤, 青交互に投げる。
- ・一人連続2球投げる。
- ・投球前に先生とポイントを確認してもてよい。(ヒントタイム)

イラスト

(準備物)

- ・ボッチャセット
- ・フープ (直径1m)
- ・モール (赤, 金, 青)
- ・ランプ
- ・ボード
- ・筆記具
- ・シール
- ・タブレット
- ・CDデッキ
- ・CD